

## 華やかな初舞台

### 碧水園舞台びらき

1月13日、白石市古典芸能伝承の館「碧水園」で新春恒例の舞台びらきが行われました。最初に神事による舞台清め式が行われ、今年一年の安全と芸能の技術向上を祈願しました。

舞台びらきでは、尺八や箏、詩吟、仕舞、日本舞踊など、市内で活動する12団体約80人が参加。幅広い世代の方々が日ごろの練習の成果を披露し、会場を訪れた約100人の観客を楽しませていました。日本舞踊を披露した小学生は「緊張したけどうまく踊れました。今年も練習をがんばって上手になりたいです」と話してくれました。

主催した白石市伝統芸能振興会のおおつぎつおお会長は「若い人が少なくなっているなか、どの団体も活動を継続しがばっています。日本古来の伝統芸能を継承し若い世代につないでいくため、皆さんのご協力をいただきたい」と話していました。



1・2\_尺八や箏などの和楽器による演奏 3\_曲に合わせて四季の風景を表現した日本舞踊 4\_琵琶を弾きながら物語を語る平曲 5\_神楽に合わせた獅子舞。披露後は新春を祝うもちまきも行われました

## 色鮮やかな壁画に圧倒！

### 絵本作家 荒井良二 ライブペインティング

12月23・24日、絵本作家荒井良二さんのライブペインティングが「こじゅうろうキッズランド」で行われました。荒井さんは、1階の交流スペース「わいわいサロン」の壁に、高さ約3mの巨大な馬や太陽、音楽隊などの絵を色鮮やかに描き上げました。筆やハケのほか、鉛筆や指先も使いながら2日間にわたって壁に描かれた絵は、迫力満点。集まった多くの親子連れは、荒井さんのエネルギーで躍動感のある絵を、興味津々に見守っていました。

荒井さんは「衝動に任せて描き始め、最後にこの施設の役割と絵が合うものになればいいと思っていました。馬とは言葉でなく気持ちで交流します。自然と交わることができる子どもの時代をリスペクトできる場所になってほしいです」と、描き上げた絵について話してくれました。

参加者は、「描き始めのイメージから変化していく絵に圧倒されました」と話していました。



1\_わいわいサロンの壁に色彩豊かに描き上げられた巨大な馬や太陽、音楽隊。荒井さんの手によって、時間の経過と共に命が吹き込まれていく様子を、固唾を呑んで見守る参加者 2・3\_描いているほとんどの時間、壁から離れず、頭に浮かんでくるイメージを一気に描き上げる荒井さん

## 夢を持つ若者が南米の地へ

### 青年海外協力隊員渡邊靖子さんが市長を訪問

12月17日、JICA青年海外協力隊員としてエクアドルのポリバル県サンミゲル市に派遣が決まった渡邊靖子さんが、山田市長を訪ねました。渡邊さんは、大学時代の海外研修の経験から、今回のボランティアへの参加を決意。1月24日から2年間、理学療法士として同市リハビリテーションセンターに配属となりました。渡邊さんは「地域に寄り添ったリハビリテーションを行いたいです」と、今後の抱負を話してくれました。



▲山田市長へ出発に向けての抱負などを話す渡邊さん

## 77年続く地区の風物詩

### 東益岡地区「防犯夜警」

12月25日、東益岡地区「防犯夜警出発式」が東益岡会館で行われました。式には東益岡青年会（大橋利史会長）や関係者など約20人が参加。この日は、同地区の青年会員8人が2班に分かれて地区内を巡回しました。この活動は、昭和17年度から始まり、火災や犯罪が発生しやすい年末年始にかけて行われてきました。青年会の皆さんは、拍子木と鐘を鳴らしながら「火の用心。マッチ1本火事のもと！」と大きな声で地区内を呼びながら巡回していました。



▲1月7日までの2週間巡回活動が行われました

## 震災を風化させないために！

### 白石市地域学校協働活動講演会

12月18日、「震災を乗り越えて」と題した地域学校協働活動講演会を中央公民館で開催し、市民や学校関係者など約180人が参加しました。講師で前福岡中学校校長の井上剛さんは、東日本大震災で被災した山元町立中浜小学校校長時代の経験から、被災直後の小学校や避難所の様子などを紹介。井上さんは「現場は情報が少なく、時には助かる可能性に賭けて迅速な判断が必要」と話し、参加者は「貴重な体験談が聞けて参考になりました」と話していました。



▲震災時の貴重な体験談を交えて講演する井上さん